

HORIBAのCSRについての考え方

# 事業成長を通じてCSRを実現する

## HORIBAとしての重要課題の抽出

HORIBAは、1945年の創業以来、分析・計測技術の提供を通じて科学技術の発展に貢献することを使命として事業成長に取り組んでいます。

急速なグローバル化や、AI・IoTの浸透が社会に与えるインパクトをHORIBAにとってのリスクとチャンスと見据え、

あらゆるステークホルダーの期待に応える高付加価値を創出する企業であり続けるために、

中長期経営計画 MLMAP2020やさらに長期的視点での貢献分野と重要課題の特定に取り組んでいます。



HORIBAが取り組むCSR活動については、ウェブサイトでも詳しく紹介しています。  
<http://www.horiba.com/jp/to-ur-stakeholders/>

### 重要課題特定のプロセス

2016

- 堀場製作所CSR担当理事と各部門のコアメンバーによる [ESGワークショップ](#) を開始
- SDGs<sup>※1</sup>やESG投資等のガイドラインを参考に、[HORIBAの様々な活動を洗い出し](#) (約100件)
- コーポレートフィロソフィやHORIBAの強みを確認し、社会課題の解決やステークホルダーとの関係において、[HORIBAが貢献すべき、あるいは貢献できる分野とフレームワーク\(デザインすごろく\)](#)を検討
- フレームワークに現状の取り組みを分類し、HORIBAグループCSR推進委員会(43-44ページ)で承認

2017

- [年間25回のESGワークショップ](#)を開催
- CDP<sup>※2</sup>に参画
- HORIBAグループCSR委員会に [ESG分科会](#)を設定
- HORIBAのユニークなCSR活動の [グローバルレベルでの活動把握](#) (世界各社へヒアリング実施)

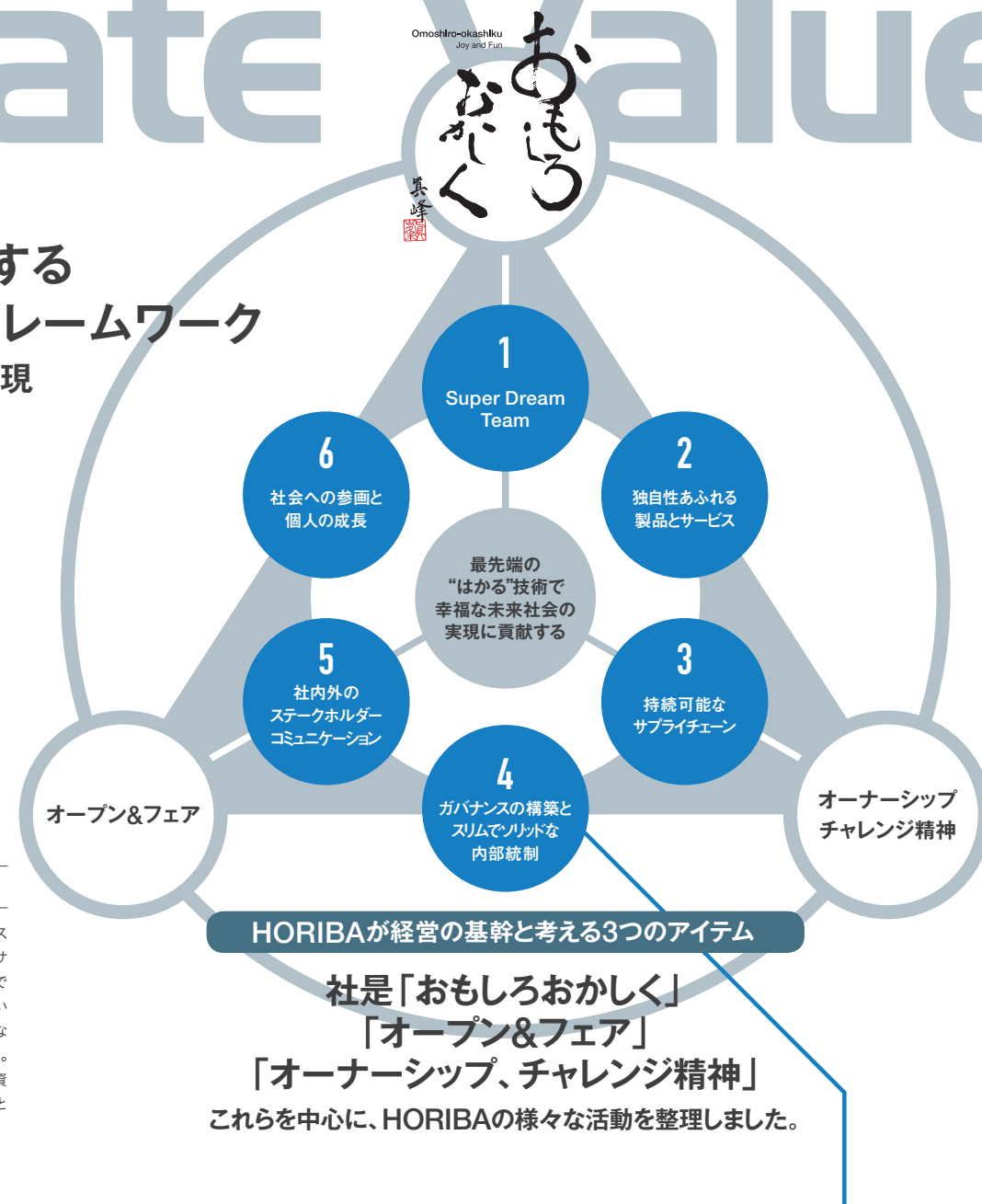
2018

- 環境・ソーシャル・ガバナンス・広報の [4分科会に分け、各分科会のミッションと2018年の活動計画](#)を策定
- 次期中長期経営計画でHORIBAのCSRポリシーを明確化して社内外に発信
- HORIBAのCSRウェブサイト再構築と同時に対外発信強化

## HORIBAが実践する 企業価値創造のフレームワーク 「デザインすごろく」で表現

### デザインすごろくを応用!

デザインを考える場合、考慮する必要がある項目をシステムティックに配したチェックリスト。例えば、名刺のサイズを変更した場合、名刺入れやスーツのポケットまでもが影響を受けることに配慮できなければならない、というように、関与する様々な事象を検討しなければならないことが一目瞭然に見えるフレームワークです。HORIBAにおいては、ビジネス活動に加えて見えない資産を形づくるあらゆる活動が相互に関係しあっていると考え、すごろくに当てはめて関係性を整理しています。



1 Sup r Dream Team	2 独自性あふれる製品とサービス	3 持続可能なサプライチェーン	4 ガバナンスの構築とスリムでソリッドな内部統制	5 社内外のステークホルダーコミュニケーション	6 社会への参画と個人の成長
バランス経営とマトリックス組織による事業基盤の強化 P39-40	事業部門間の壁を取り払った技術共有と製品開発によるアプリケーションの拡大、水関連事業での統合と成長 P41-42	HORIBA BIWAKO E-HARBORでの生産プロセス改革による効率性の向上	会社設立時から続く社外役員の選任	重要情報の特定とオープンでフェアなIR活動による積極的な開示 UNGC <sup>※6</sup> 署名やCDPなど外部機関との対話	ブラックジャックプロジェクトやHORIBA COLLEGE <sup>※6</sup> を活用した個人と組織の成長 P39-40
HORIBAステンドグラス・プロジェクトを通じた、性別・国籍・世代の違いや障がい <sup>※3</sup> に よらないタレント発掘と組織の成長 P39-40	グローバルに大学・研究機関と連携した共同プロジェクトの推進	半導体・医用システム機器部門でのISO22301認証取得や、熊本地震対応の教訓展開	グローバル基幹業務システムの導入 IMS <sup>※4</sup> による経営基盤の強化	取引先・顧客とのグローバルな対話の促進 販社・協力会社会議の継続、技能オリンピック、顧客向け技術セミナーなど	働き方改革による豊かな人生設計支援 P39-40
高い品質を支える社内教育体制	グローバルM&Aを活用した製品・サービス提供	腐敗防止の取り組みと強制労働や児童労働の排除	海外グループ会社トップの堀場製作所執行役員就任 日本のマネジメントスタイルの共有や海外グループ会社のモチベーション向上をめざす	従業員・製品誕生会等を通じた経営トップとの社内コミュニケーション	HORIBA Blueberry Farm “Joy & Fun” <sup>※7</sup> 等を活用した自然との共生、地域活性化

※1 SDGs 2015年9月の国連総会で採択された『我々の世界を変革する 持続可能な開発のための2030アジェンダ』と題する成果文書で示された具体的行動指針。持続可能な開発のための17の目標と169のターゲット(達成基準)からなる。 [http://www.un.org/activities/ec\\_nomi\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](http://www.un.org/activities/ec_nomi_social_development/sustainable_development/2030agenda/) ※2 CDP(カボン・ディスクロージャプロジェクト)とは、機関投資家が連携して運営し、ロンドンに事務所を置く非営利団体CDPが、FTSE ンデックスに該当する中から選定した企業に対し、環境戦略や温室効果ガスの排出量の開示を求めているプロジェクト。CDPは、世界の先進企業に情報開示を求めて質問状を送り、その回答を分析・評価して、投資家に開示している。 <https://www.cdp.net/ja/>

※3 一般社団法人企業アクセシビリティ・コンソーシアム(ACE)に加盟して、障がい者の活躍を推進しています。HORIBAウェブサイトでも紹介しています。 <http://www.horiba.com/jp/about-horiba/diversity/diversity-and-equality/> ※4 ISOやOHSASなど複数のマネジメントシステム規格をひとつに統合したマネジメントシステムで運用すること。 ※5 UNGC：国連グローバル・コンパクト。 <http://ungcn.org/gc/index.html> ※6 HORIBA COLLEGE：2009年に開校した、従業員が学生として、あるいは講師として学びあい教えあう場 ※7 HORIBA Blueberry Farm “Joy & Fun”：滋賀県高島市の休耕地を借り上げて2012年4月に開園。新入社員による農作業、従業員やその家族参加によるブルーベリーをはじめとした野菜の収穫体験等を実施しています。